

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

伝統の技が生んだぞうりを超えたZÔRI

伊藤 実 東京／染の創作ぞうり 四谷三栄の3代目



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わり、現在は京都造形芸術大学副学長、地域・企業のアドバイザー、下鴨茶寮主人などを務める。「くまモン」の生みの親でもある。



1月24日、プレゼンテーションにて



バイザーたちにプロダクトを紹介

本プロジェクトは2016年、プロジェクトのスーパーバイザーに、放送作家として多くのヒットを手がけてくまモンの生みの親でもある小山薫堂氏を迎え、生駒芳子氏(ファッション・ジャーナリスト/アート・プロデューサー)、下川一哉氏意と匠研究所らをサポートメンバーに発足。以来、全国の若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、あるさと納税の返礼品への指定やロックフェラー家主催のチャリティーイベントへの出品、上海での国際的な展示会への出品など、目覚ましい活躍を見せている。

「匠」のモノづくりを応援

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:LEXUS)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの制作に取り組んだ。

1月24日、東京ミッドタウン日比谷で行われた発表会では、国内外の百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイン関係者などに向けて自身のプロダクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなる大きなチャンスを手にした。

また当日は、2019年の新たな取り組みとして、全国の匠と、世界的クリエイター(コラボレーター)が、新たなプロダクトを制作するコラボレーションプログラムを発表。コラボレーターである隈研吾氏(建築家)、廣川玉枝氏(SOMARIA クリエイティブディレクター)、森永邦彦氏(ANREALAGE/代表取締役社長・デザイナー)、辰野しずか氏(クリエイティブディレクター/プロダクトデザイナー)が登場し、想いを語った。2019年秋頃には、完成したコラボ作品、過去のプロジェクトから生まれた匠たちの作品を披露するイベントを京都の地で開催することを合わせて発表。プロジェクトも一歩一歩進化している。



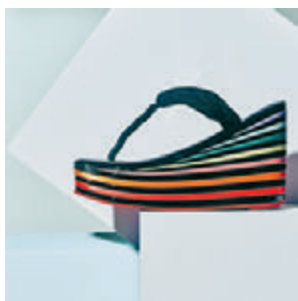
伊藤さんの自作とともに

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。東京選出の匠、染の創作ぞうり 四谷三栄3代目の伊藤実さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

女性の足元をセクシーに彩る

昨年6月に行われたキックオフセッション、生駒氏と最初の面談を終えた伊藤さんは戸惑っていた。「ぞうりとは全然違うことも考えてみて、ついでにわかれても俺ぞうり屋なんですか(笑)」東京・四谷にある伊藤さんの店は、祖父・父の代には神楽坂の芸者衆のほとんどがひびきにしていたという老舗。「江戸の粋」は幼い頃から感覚として身体に染みついている。遊び心も持っているつもりだ。しかし生駒氏のアドバイスは、そんな伊藤さんにとっても予想を超えていた。

「普段の仕事の延長じゃなく、このプロジェクトでなければ絶対できないようなジャンプをしないとつまらないじゃない?ぞうりを作る、から離れて、あなたのぞうりの技術で何ができるかって発想してみて」。その言葉に伊藤さんは、雪駄の現代版を作るといふ当初のプランを捨てた。「店



斬新な配色が目を引き

川上貞奴の精神にならって

かかとの高さ約12センチは一般的なぞうりの約3倍。台の部分には薄くカットしたコルク15枚を重ねた。鼻緒は通常とは逆で、前坪(鼻緒の前部分)がかなり長いことが特徴。試作を重ねて見つけた台の自然なカーブとこの鼻緒のおかげで履く人の体が過度に前傾せず、指の間も痛くならないという。伊藤さんのプロダクト「ZORI 貞奴だ」。

「前坪を長くするというアイデアは割と早く出てきたものの、普通の鼻緒では強度的にそこまで長くできません。なので2本を擦り合わせることにしました。ふたつの色を使えばデザイン的にも幅が広がります。年配の職人さんたちにもずいぶん聞いてみましたがこんな鼻緒は誰も見たことがないぞうりです」



エリア・コンサルティングにて生駒氏と



完成プロダクト 「ZORI 貞奴」

で接客もするので、いつも大切にしているのはお客様のための商品履き心地のいいぞうりを作るといことです。しかしその思いが強すぎて考え方が狭くなっていたかもしれない」

もともと女性のファッションが好きで、ヨーロッパブランドのショップや婦人靴売り場もよく

のキックオフセッションから4カ月後、明治時代の芸者で、後に女優としてバリ万博の話題をさらった川上貞奴は、洋装と和装の垣根を取り払った斬新なファッションでもヨーロッパに衝撃を与えた。常識にとらわれない彼女の自由な精神にならって命名しては、と提案したのは、伊藤さんの工房を訪れた生駒氏だ。

今年1月、プレゼンが始まる前に会場内を視察する生駒氏に、「貞奴できました」と伊藤さんが声をかけた。12センチのラインボーカラーのぞうりという、常識を超えたプロダクトに「ジャンプしましたね」と生駒氏も満面の笑みを浮かべる。

「セクシーな足元、貞奴、そして自分の技術と経験。一つひとつ

のピースがうまくはまって、想像もしなかったものを生み出せました。生駒さんにはどれだけ感謝してもしきれません。僕にとっては最高の出会いでした」。プレゼンを終えて語る伊藤さんの顔



伊藤さんの作業風景

見に行く伊藤さん、シュエリーなどの分野でも仕事のイベントになるものはないかとどうもアンテナを張っている。そんな伊藤さんの心に、生駒氏の言葉が火をつけた。「困ったとこいながら、むしろ喜びを抑えきれないような表情がそれを物語っている。」「これから約半年、職人じやなくアーティストのつもりで、商品じゃなく作品を作るつもりでとことんやってみます」。そう語ってキックオフセッション会場を後にした伊藤さんの頭に、生駒氏のある言葉が引っかかっていた。「女性の足元はセクシーでなければ。欧米ではそれが一般的な感覚よ」

には満足感があふれていた。完成したプロダクトは今後、四谷の店に飾る予定だという。街を歩く人たちに貞奴はどう見えるでしょうね。そう問うと、伊藤さんはもう一度満足そうに笑った。



伊藤 実
東京／染の創作ぞうり 四谷三栄の3代目

1975年、新宿区で生まれる。98年神奈川県立神奈川大学を卒業後、すぐに初代、伊藤喜代次の下、四谷三栄に就く。「履き心地の良いぞうり」を作るために、日々、鼻緒のスゲを探求する他、ぞうりのデザインにも力を入れている。ハート婦人画報社 発刊『美しいキモノ』にて毎月多数のぞうりのデザインを手掛けている。

LEXUS
NEW
TAKUMI
PROJECT